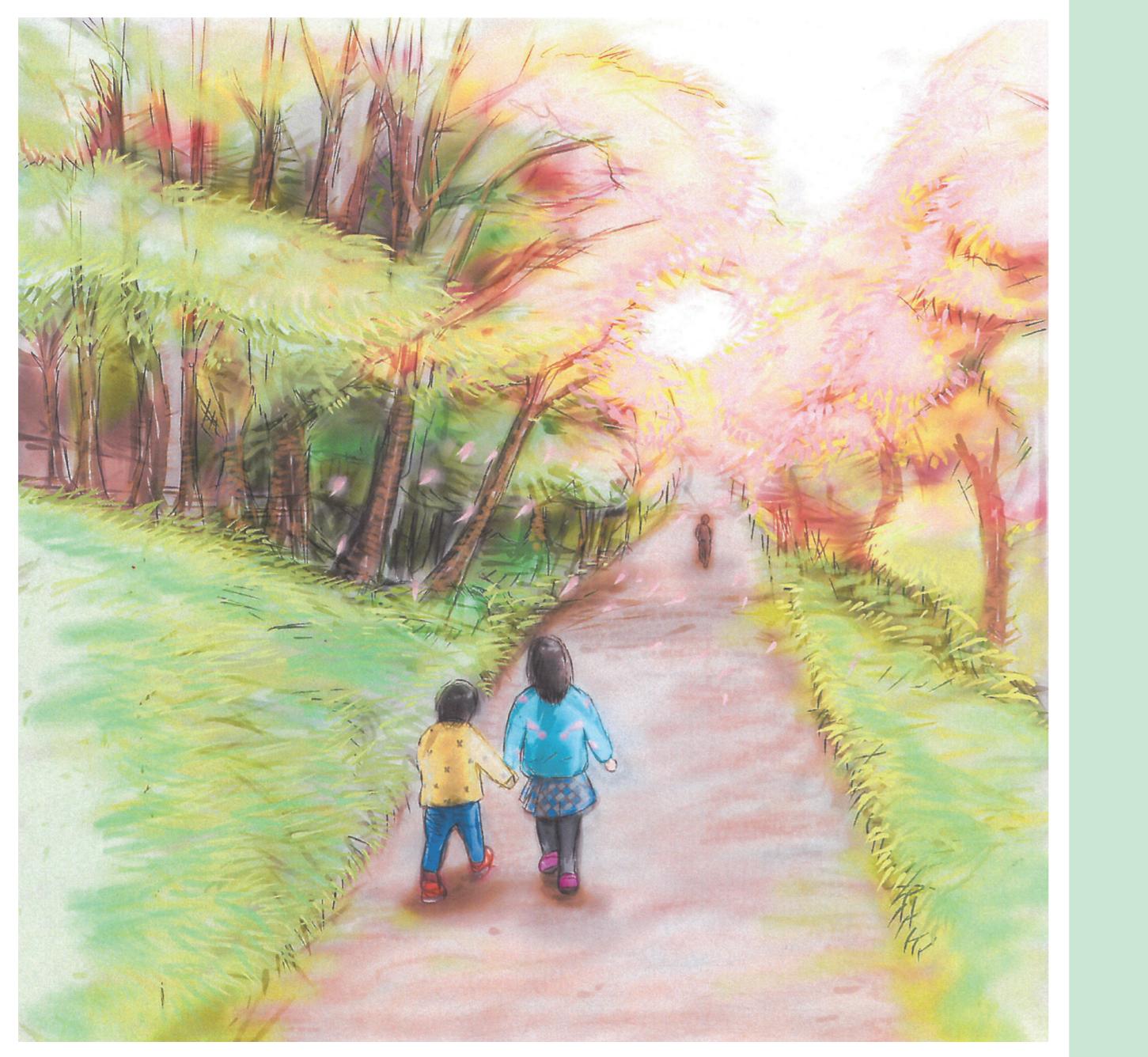


大久保地区・地域だより

No.96 さわやかあおくぼ

2021年3月31日発行 編集・発行 大久保地域センター管理運営委員会広報部 03-3209-3961



古より人が草木を分け入り踏み固めてできあがった道
道によって、つながれた地域と地域

やがて、人と人が交流し道は歴史を作り文化を育む

そして、道は人と人の心をつなぐ大切なものに

『翠蘭会』の「いけばな」に感謝

10年の長きにわたり、四季折々の「いけばな」を和室前に飾ってくださったのは登録団体『翠蘭会』です。

毎週欠かさず熱心にお稽古された後、生けてくださいました。池坊の神髄と言うべき日本の草木の美しさの数々に出会わせていただき、心より感謝いたします。

現在はコロナで活動休止中ですが、再開をお祈りしています。

スフレーバラ・マランジュ／カーネーション・ファリダ／ガーベラ／ケイトウ・キャッスルピンク／ヒベリカム・ココカジノ／レモンリーフ／スイトピー



赤い果実のヒマ、斑入りのアシヒハラシ、白いリンゴの三種生けは、夏真っ盛りの8月の展示。野趣に富んだ土佐水木の葉と小菊の花の二種生け。5月の展示で、若葉の生命力を感じます。

お知らせ

あなたの作品を展示しませんか？

3階ロビーの共有スペースで一定期間、展示します。絵画や書などは壁面へ、立体作品は飾り棚へ。大久保地域センターの登録団体または大久保地域在住の方に限ります。詳しくは4階事務局までお問い合わせください。



令和3年1月より、和室前に展示した水引作品。鳳凰、鶴、梅、創作結の一つ一つが見事に表現されています。

行事予定

例年5月に開催していました「五月まつり」は延期いたします。令和3年度は、どんなことができるか検討中です。

問い合わせ

TEL 03(3209)3961
大久保地域センター FAX 03(3209)3962

11月25日

フラワーインジメント教室

参加者 12名



花材

スフレーバラ・マランジュ／カーネーション・ファリダ／ガーベラ／ケイトウ・キャッスルピンク／ヒベリカム・ココカジノ／レモンリーフ／スイトピー



講師 森 美智子

先生の優しい指導でそれぞれ素敵なお花束ができあがり、心癒されるひと時でした。



コロナ禍にあって、ひとりでできる「フラワーインジメント」なら、密にならず安全ではと考え、感染防止対策を徹底して行いました。

編集後記

コロナ禍のため、家の中にはかりいたら運動不足になってしまいます。マスクをして、風にふかれて気の向くまま近くを散策してみるのもいいんじゃないでしょうか。

コロナが早く収束しますことを心から願っています。

のんびりリフレッシュする道

かわいいお地蔵様との出会いから最高峰の山へ

自分だけの時間をのんびり過ごしてみたいと思った時、私はふらりと散歩に出かけます。

今日、のんびりひとりで歩くコースは、明治通りを東に向かって抜弁天方面へ。坂道を登る途中の抜弁天通りが出発点です。そこから新宿7丁目方面へ、車一台がやっと通れる狭い脇道を歩いて行くと、住宅街に、突然あらわれた山門。

ここ観音庵では、一体一体、マスクをした赤いよだれかけのお地蔵様群が、「良く来たね」と、笑顔で迎えてくれます。静かで心和むポイントをひとつみつけました。一日も早く、このマスクが取れる日が訪れる事を願わざにはいられません。

そのお寺の裏手は抜弁天北公園に続く道です。小さな子ども連れのお母さん達が何組か、ポカポカの日差しに包まれて楽しそうに走り回っています。

この公園の正面入り口は統計局の横道へつながっていて、ひたすら歩いて行くと箱根山通りに出ました。



觀音庵



抜弁天北公園



左手には戸山ハイツの敷地が広がっています。

ここは昭和の雰囲気溢れる団地が整然と立ち並び、それぞれの棟ごとに、ダリア、マリーゴールド、ベゴニア、色々とりどりの季節の花々が、訪れる人を出迎えてくれます。

どの花壇も狭く小さいスペースですが、手入れが行き届いていて「あれ！ここはイングリッシュガーデン？」と錯覚させられるほどです。

いよいよ、目的地の箱根山が近づいてきました。

赤や黄に色付いた紅葉や楓、スズカケの木々の間を抜けると、見えてきました。

標高 44.6m、山手線内では最高峰の、箱根山登山口が。



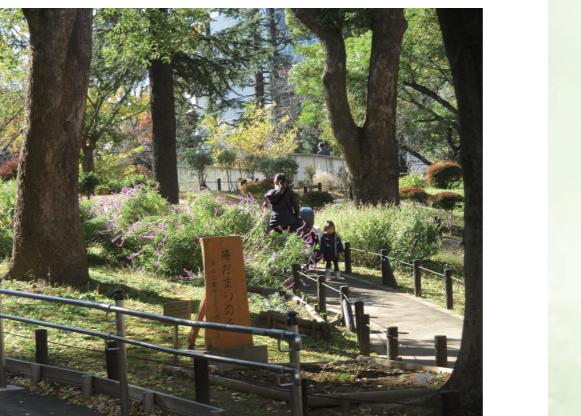
数十段の階段をゆっくり登って行くと、そこはもう山頂。ベンチに腰をおろし、眼下を見渡すと、春の桜、青葉の夏、色付いた秋、もちろん、冬の枯れ葉のじゅうたん。どの季節も甲乙付け難い眺めが私たちを楽しませてくれる。

「ア、来て良かった！」

リセットされた私に、また少しづつ、力が湧いて来るのを感じます。

The logo features the text "久保こみち歩き" at the top in a black, traditional-style font. Below it, the characters "道" and "久" are rendered in large, bold, blue ink. The character "道" has a light blue outline and a wavy base, while "久" has a similar blue outline. The background is a soft-focus photograph of green grass.

今から數十年前、まだ子育て真最中の頃、「道は生きている」（富山和子著）という面白いタイトルの本に出会った。おそらく、当時、児童書推薦図書の中の一冊だったような記憶がある。買物に、子どもの通学に、散歩に、そして仕事に、あらゆる人々の移動のために、生活にかかせない「道」。その存在自体が当たり前で、今まで考えたこともなかつた道の果たす役割を、改めてこの本に教えられた。



私たちが住むこの大久保地域にも、長い年月をかけ整備され、各所をつなぐ新しい「道」が、このたびついに完成した。正式名称は「都市計画道路補助第72号線」。靖国通りから新目白通りまでの区間2510mの路線だ。特に職安通りから諏訪通りの区間については、つつじの名所にちなんだ愛称「つつじ通り」と命名され、より身近な存在となつた。

い「道」が、
新目白通りま
しの名所にち



「つつじ通り」に点在する憩いのベンチ



新国通りまで見わたせるように

道2 新しい風を感じる道

アスファルトの柔らかい感触が足元から伝わってくる。鬱蒼と茂る木々の間から風の音が涼やかに聞こえてくる。まれに近くの学校から子ども達の声が聞こえる。いつの間にできたのか、この道は今まで知らなかった私の



戸山公園から戸山小学校方面に抜ける長さ400mほどの、歩行者専用道路とそれにつながる小公園風の広場の小道ができたのが2015年であり、私有地であることを知ったのは最近のことである。幅6メートルの道がかなり広く感じるのは、車が通らないこと、そして人通りもほとんどないことが原因だろうか。広場の小道を歩いていて補助第72号線に抜けることを気付いたが、人の気配を感じさせないこの素朴な広場の中にいくつかの高層ビルを見る風景は、散歩中の私を秘密めいた喜びに浸らせた。

この地域が新宿区の整備した私有地であることは、域内に見る高層ビルやレストラン、居住棟等で理解できた。そして何より安心したのは、この広い歩行者専用道路を含めた広場が大規模災害の際、広域避難場所になり得るということ。ちなみに避難場所とはそれぞれの地域で定められた避難所ではなくオープンスペースのことであることも学んだ。

アスファルトの道路から広場の小道に入り、いくつかに分かれた道を楽しみながら歩いていたら電車の音が聞こえた。そのまま進んでいくと補助第72号線がまっすぐに伸びている細い道に行きつく。道脇に「これらの広場及び道路は環境整備に基づく地区計画



真っ白なつづじの花が見事